

第24回研究会テーマ:

「デザイン思考の世界的潮流と慶應SDMの取り組み」

開催日: 2013年1月26日

講師: 前野隆司氏 慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科
研究科委員長・教授



前野隆司氏は東京工業大学卒業。キャノンに入社し、開発経験の後、UCLA、慶應義塾大学、ハーバード大を経て、現在、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長である。本研究の目的はイノベティブな商品やサービス開発の一手法の開発である。米国IDEOやスタンフォード大学d.schoolに始まった「デザイン思考」に、独自の視点を加え、より実践的な手法を研究している。その特徴が「システム思考」と「デザイン思考」の融合である。システム思考のVモデルに見られるような体系的な分析・統合モデルに、デザイン思考の3要素であるObservation, Ideation, Empathyを有機的に結合している。その方法として、分析・統合思考だけで対象を見るのではなく、広い視野で観察、発散と収束を繰り返した上で、共感のためのプロトタイピングをする工程と、そのプロトタイプから、より具体的な商品やサービスを、グループワークを通して連想、発想してゆく。この集合型討議でアイデアを止揚させ、具体的な商品構成に導いてゆくが、そのファシリテーションにノウハウが蓄積される。

デザイン思考ではある意味、東洋的な一元思考が何え、右脳をフル活用するようにプロセスが出来ている。研究成果の一例である2×2欲求マトリックス法では、飲料水の売り上げの一部を寄付する事業モデルについて、単に売買の事業モデルに留まらず、寄付と社会貢献の行為が事業と有機的に関連していることも導き出されている。

研究の実証に当たっては、学内のみならず、企業との共同研究、地域への教育的貢献など幅広く活動されている。

(報告: 田村新吾理事)

第25回研究会テーマ:

「クリエイティブ産業研究の論点と展望」

開催日: 2013年3月30日

講師: 姜 理恵 早稲田大学ビジネススクール招聘研究員 日本創造学会会員

早稲田大学大学院商学研究所 研究員姜理恵(かん・りえ)氏による講演。姜氏は上記のテーマで、ご自分のキャリアと研究テーマを絡ませて講演された。

特に興味をひかれたのは、雑誌編集長と発行部数の関係で、実際の調査から、変革型リーダーシップの編集長は、発行部数を大幅に伸ばすことができると述べた。さらに氏の研究結果から、「マスメディアでクリエイターとして働くのに適した創造性があるかどうかは入社時点(22歳前後)である程度わかる。できない奴はどうやってもできない」と断言した。このことには質問と意見が殺到した。

また、2012年のadobeの調査結果から、世界は日本が最もクリエイティブな国であること、しかし日本人は自らをあまりクリエイティブだとは考えていないという結果を紹介し、会場との意見交換が活発に交わされた。

(報告: 澁谷貞子理事)